



青少年海外ホームステイ派遣

アメリカ

昨年のインターナショナルコンテスト（白根国際交流協会主催）で選ばれた7人の中・高校生が、春休みの2週間、アメリカのサンフランシスコでホームステイを体験してきました。

4月16日、白根地区公民館で行われた帰国報告会では、それぞれの体験と感動を発表。皆さんの帰国報告文の一部を紹介します。

事業研修レポート

での2週間



大好きなアメリカ

栗原綾子(高井東2)

二週間の滞在中は、十七歳のジュシカと高校に通いました。豚の解剖をしたり、絵を描いたり、体育の授業に出たりしました。日本語の授業では、日本のテレビ番組のビデオを見ました。にぎやかな雰囲気でも楽しかったです。昼食は購買で買い、気持ちの良い広い庭でみんなで食べました。ところで、アメリカの家庭で不思議に思ったことがあります。一つは夕食で、おなかがすくと、個々にパンやお菓子を食べていました。また、日本の家には部屋ごとに大きな電気がありますが、アメリカでは小さな電気スタンドが置いてあるだけでした。ほかに、朝にシャワーを浴びる人が多いことや、買った水を飲むこと、笑いたいときには笑い、声を出したいときには声を出すことなど、日本との違いを感じることはたくさんありました。アメリカは大好きな国でしたが、ますます好きになりました。



My home stay

鶴巻英治(中山)

海外へ行くのは初めてで、楽しみでしたが、不安もありました。しかし、サンフランシスコに着くとそんな不安は無くなりました。雲一つない快晴だったということもあり、非常に美しい町並みに見え、アメリカのスケールの大きさに感動しました。日本とアメリカでは多くの違いがあり、考え方の違いが態度に表れている点もありました。例えば、授業中でも分からないところがあれば手を挙げて質問する積極的なところ。また、この国では責任と引き換えの自由が確立されていると思いました。アメリカでは休日家族と過ごすという人がほとんどでした。僕は家族と一緒に休日過ごすことはほとんどありません。家族をそんなに大事にするということもありませんでした。今回の旅はアメリカのことを知る以上に、日本について見直すことができました旅だったと思います。



おいしいアメリカ

小林未佳(蔵主)

私は「アメリカの食事の様子や食材」を研修目的としていました。私を迎えてくれた家族には十五歳の男の子がいて「クッキング」の授業を受けていました。私もその授業を受けました。先生の話す言葉は聞きとれませんでした。包丁の種類や使い方、野菜の切り方や調理の仕方などを実際に食材を使って説明してくれたので、見たり、男の子に聞いたりして学ぶことができました。初めて見る果物なども使われていました。家でのご飯では、魚料理が無いことに気づきました。スーパーマーケットの魚売り場も狭く、魚の種類も多くありませんでした。野菜には、細長いニンジンや太くて大きいキュウリなど、日本と形の違うものもありました。学校ではドーナツやパン、ピザやサンドイッチなどたくさん売られているのが売られていて、毎日違う物を食べるのができました。どれもとてもおいしかったです。



アメリカのスクールファッション

河西智未(大通南2)

私のホストファミリーには、クラリッサという高校で日本語を専攻する女の子がいました。簡単な日本語なら話すことができました。私のホームステイでの研修テーマはスクールファッションを調べることでしたが、クラリッサはこれを理解してくれて、生徒の写真の撮影を手伝ってくれました。アメリカでのスクールファッションはさまざまで、みんな自分の好きな服を着ていました。唯一、生徒の約七割が同じメーカーだったのが、かばんでした。それはアメリカの分厚い教科書がたくさん入り、丈夫なので人気があるということでした。しかし、色や形は豊富で、みんな少しずつ違うかばんを持っていました。やはり一人ひとりの個性があるのだと感じました。二週間、とても楽しい日々でした。もう一生できないかもしれない貴重な体験をすることができて、本当に良かったと思います。



アメリカのスクールライフ

渋谷沙弥香(田中)

アメリカの学生の登校は、ほとんどがバスか自家用車でした。一千八百人が通っているという校舎は、階建てで、驚くほどたくさんある教室がありました。校舎はとても細長く、廊下もまた、とても長く、教室は各教科ごとにまわっていました。授業と授業の間の休憩は、教室と教室の移動で精いっぱいなこともありました。授業中の態度は真剣で、積極的でした。先生が質問すると、指名されなくてもみんなが口々に答えを言っていました。放課後は、塾へ行く人はいません。宿題はして予習や復習をする人は少なく、クラブ活動をしたり遊んだり、楽しく過ごしているようでした。高校で出会った人は、良い人ばかりでした。知らない人でも目が合うと笑って、知っている日本語で一生懸命話しかけてくれて、うれしくなりました。日本では学べないことを、体験できた二週間でした。



日本との違い

野沢しおり(大通南二)

私の研修テーマは「日本とアメリカの物価の違い」でした。アメリカの物価の安さは、私の予想をはるかに越えていました。スーパーマーケットに行くと、「こんな値段で買えるんだ」と驚くばかりでした。商品の中には日本で売っていないものもありましたが、値段のほとんどは日本の半額かそれ以下で、特に安かったのは肉や果物、ジュース類でした。私を通った学校の様子でも違いは多く、日本の学校との共通点を見つけるのに困るくらいでした。一番驚いたことは、授業中、日本では許されない飲食が自由なことでした。見習うべき点もたくさんありました。授業に対する生徒の意識です。先生の声にはすぐに集中し、分からないことがあれば発言して、進んで授業に参加していました。「アメリカではやるべきことをやっているからこそ、手に入る自由がある」と感じました。



ホームステイを終えて

川井知佳子(魚町六)

私のホームステイ先にはスーザンという十六歳の女の子がいました。お母さんも優しく不安だった私は安心しましたが、彼女は英語があまり話せない様子で、ホストファミリーの会話は全てスペイン語でした。みんなが何を話しているのか分からず、最初はホームシックになりました。学校では日本語の授業にも参加しました。日本語クラスの人たちは日本にとっても興味を持っていて、日本についてのさまざまな質問をされました。驚いたことはみんなが日本の歌を知っていて、歌えることでした。みんなとても上手に歌っていました。放課後には買い物や図書館に行きました。スーザンは宿題がとても多く、毎日勉強していました。私はみんなに日本食を食べてもらおうと、てんぷらと餃子を作ったことがあります。お母さんがすごく喜んでくれて、私もうれしかったです。